

# 平成30年7月豪雨から1年 被災地を訪ねて

「平成30年7月豪雨」から1年。甚大な被害を受けた広島  
県坂町小屋浦地区と呉市天応地区を訪ねた。

## 門徒12人偲び1周忌



### 坂町小屋浦地区 西昭寺

地区を流れる天地川 門徒宅それぞれで1  
の上流の砂防ダムが決 周忌がつとめられた  
壊し、土石流にのみ込 が、「亡くなられたお  
まれ、門徒12人が亡く 同行を一緒に偲ばせて  
なった坂町小屋浦地区 いたきたい」と、同  
の西昭寺（河野法誓住 寺門徒からの声で法要  
職）で7月6日、1周 が営まれた。

忌法要が営まれ、門信 河野住職は「人間関  
徒60人が参拝した（写 係が密な地域。みんな  
真）。 手を合わせた）寺の復興に向けて奔走

だくご縁を大切にし、  
助け合ってきた。災害  
はいっ起るかわから  
ない、今日一日を精い  
っぱい生かさせていた  
だきましよう」と語り  
かけた。  
参拝した政本治さん  
（59）は亡くなった母・  
朝子さん（当時87）と姉  
・典子さん（当時62）に  
思いをよせながら、「1  
年があつという間。生  
きることで精いっぱい  
だった。残されたもの  
としてはつらく、心に  
穴が開いたような感  
じ」とつぶやいた。



同寺は建物の1階部  
分に土砂が流れ込むな  
ど被害を受けた。現在  
土砂はかき出されたも  
のの復興は道半ば。門  
徒総代で、同寺周辺地  
域の自治会長を務め、  
災害直後から地区や同  
寺の復興に向けて奔走

してきた中本道良さん  
（66）に現状を聞いた。  
「家屋はほとんどが  
全半壊、床上・床下浸

水した。しばらくは避  
難所やみなし仮設住宅  
などで生活する人が多  
かった。1年が経ち、  
家屋の改修工事など少  
しずつ元のように戻り  
つつあるが、大切な人



土砂を撤去しただけで  
手つかずのままの庫裏

を止めた悲しみは癒  
えるものではない」と  
話した。  
河野住職は「昨年9  
月、門徒総代会で本堂  
改修の声上がり、ご  
本山からの借り入れと  
の法座は毎回3日間ず

つつとめてきた。災害  
に遭う前のお寺の姿を  
何とか取り戻したい  
が、庫裏には玄関の扉  
もなく、骨組みがむき  
出しの状態。改修のめ  
どは立っていない。ご  
住職は災害当初から寺  
を離れず2階の講師部  
屋で寝泊まりされ、お  
風呂は近所に通って  
いる状態。元の法座活  
動ができるのはまだ先  
になりそう」と話して  
いた。